

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	東海林（市川） 恭子 【ジェンダー学際研究専攻 平成25年度生】	<p>本論文のテーマは、日本の大卒女性の労働力率の低さが、学歴に見合う仕事に就きにくいという学歴ミスマッチにあるのではないかという視点から、量的分析をすることである。欧米で発展している学歴ミスマッチ研究の理論と実証を踏まえて、異なる労働市場を持つオランダとの比較を通じて、先行研究の少ない日本の特徴を明らかにする。Overeducation, Undereducation の計測には主観的な計測法と客観的な計測法があるが、本論文は現在の仕事にもっともふさわしいと思われる学歴が現実の学歴とが合致していないことを学歴ミスマッチと定義し、理論と実証研究のサーベイを行い、3つの実証研究を行った。4章は大卒者の早期離職に与える学歴ミスマッチの研究、5章は初職が学歴ミスマッチ（あるいは適合）の場合に、5年間後にそれが解消（あるいはミスマッチ）される要因の研究である。日蘭について、REFLEX 調査（2005-2006年に大学卒業5年後の男女に20カ国で行われた調査の個票を利用、日本2501サンプル、オランダ3425サンプル）を用い男女で比較された。この結果、学歴ミスマッチが早期離職を引き起こしやすいこと、また日本はオランダ以上に初職の学歴ミスマッチが5年後に継続しやすいとともに、オランダに比べてミスマッチの解消に男女差があること、男性にみられる内部異動によるミスマッチ解消の経路が日本の女性には有意に見られないことなどを見出した。6章ではOECD PIAAC 調査（15-65歳男女、日本5278サンプル、オランダ5170サンプル）から学歴ミスマッチが賃金に与えるペナルティを計測、日本では、overeducation の賃金ペナルティが存在し、大卒パート女性の方が大卒フルタイム女性より賃金ペナルティが大きいという、高学歴パートへの大きい賃金ペナルティという日本の特徴を提示した。</p> <p>本審査委員会は平成28年7月11日、10月11日の2回行われ概ね高い評価であった。しかし学歴ミスマッチの計測手法の妥当性、また海外での先行研究における計測手法について詳細に検討すべきとの審査コメントに沿って加筆とメール審議が行われ適切な修正がなされたと認められた。</p> <p>公開審査会は平成29年2月24日に行われた。良く整理された発表であり、適切に質疑に回答した。審査委員会は本論文が本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に十分達していることを認め、合格とし、博士（社会科学）Ph.D. in Economics の学位を授与することを全員一致で決定した。</p>
論文題目	学歴ミスマッチと大卒女性の就業に関する実証分析 -日本とオランダの比較を通して-	
審査委員	(主査) 教授 永瀬 伸子	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 大森 正博	
	教授 平岡 公一	
	教授 小峰 隆夫	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・○否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>○ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

